



2023年8月10日

各 位

会 社 名 大王製紙株式会社
代表者名 代表取締役社長 社長執行役員 若林 頼房
(コード番号 3880 東証プライム市場)
問合せ先 取締役 常務執行役員
コーポレート部門 総務人事本部長 田中 幸広
(TEL. 03-6856-7501)

当社子会社いわき大王製紙におけるボイラ再建について

当社連結子会社である、いわき大王製紙株式会社（住所：福島県いわき市南台、以下 いわき大王製紙）で2022年9月6日に発生したボイラ損壊事故につきましては、近隣住民の皆さま、お客さま、関係企業の皆さま、関係当局をはじめとする方々に多大なるご心配とご迷惑をおかけしたことを、改めてお詫び申し上げます。

7月6日付け「当社子会社いわき大王製紙におけるボイラ損壊事故後の対策について（第三報）」にてご報告しました通り、当社ならびにいわき大王製紙では外部の有識者を含めた「事故調査委員会」を通じて、本事故の発生原因の究明および再発防止策を事故調査報告書としてまとめるに至り、併せてボイラの再建を検討してまいりました。

本日開催の取締役会に於いて、事故調査報告書に基づく複数の推定原因に対する再発防止策を講じたボイラの再建を意思決定いたしましたのでご報告いたします。

当社グループでは事業活動を通じて、経営理念である「世界中の人々へ やさしい未来をつむぐ」の実現を目指し取り組みを進めています。生産活動においては安全を第一に、製品品質の安定、資源の有効利用を通じた環境負荷低減の取り組みを今後も継続してまいります。

記

1. ボイラ再建計画の概要

- 1) 発電出力 : 33,333 キロワット
- 2) ボイラ型式 : 循環流動層式 (CFB^{※1}) ※1. Circulating Fluidized Bed
(下記の再発防止策を講じた設計としています)
- 3) 燃料 : 木質チップ、RPF、タイヤチップ、構内廃棄物
- 4) 設備投資額 : 190 億円 (概算)
- 5) 運転開始時期 : 2025 年 (予定)

2. 再発防止策

- 1) 水管の漏洩対策
 - ・ 三角スペース^{※2}用シールフィンを無くす (結果的に三角スペースも無くなる。)
 - ※2. 火炉の密閉性を確保するシール部材と水管 (チューブ) との間に存在する狭隘でかつ、点検ができない空間
 - ・ 水管の内面スケール付着抑制 (クリープ損傷リスク回避)
 - ・ ボイラ缶水の pH 低下防止 (水素侵食リスク回避)
 - ・ 耐火材除去による水管への熱負荷上昇リスクを発生させない (水素侵食、クリープ損傷、き裂リスク回避)
- 2) 万が一、漏洩したとしても水蒸気爆発発生リスクを低減するための対策
上記1) の対策に加え、更なる安全対策をボイラメーカー様に要望し、以下の仕様に変更することとしています。
 - ・ 大量の水が保有熱量の多い流動材と一気に接触することを防止するために三角スペースを廃止

3) 更なる損壊範囲の拡大防止の対策

- ・外部熱交室周壁の水管構造（水管＋耐火材構造）を非耐圧構造（ケーシング/鉄板＋耐火材構造）とする
- ・外部熱交室内の蒸発器の非設置

いわき大王製紙は今回のボイラ再建により、原料をマテリアルリサイクル（古紙を原料に新聞用紙、段ボール原紙を製造）するだけでなく、燃料も全て木質チップやRPF、廃棄物等の非化石由来の燃料で賄う（サーマルリサイクル）工場となる予定です。

以 上

参考：[2023年7月6日付け「当社子会社いわき大王製紙におけるボイラ損壊事故後の対策について（第三報）」](#)